

## 防災訓練実施結果報告書の要旨

○玄海原子力発電所における総合訓練（複数の訓練を組み合わせて行う訓練）

訓練実施日	2020年12月11日
参加人数	502名（協力会社110名を含む）
想定した原子力災害の概要	<p>○1, 2号機は廃止措置段階中に全交流動力電源喪失</p> <p>○3, 4号機で原子力災害対策特別措置法第15条事象に至る原子力災害を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定格熱出力一定運転中に、地震発生により、3号機は原子炉手動停止、4号機は原子炉自動停止、その後、外部電源を喪失。</li> <li>・3号機は、全交流動力電源喪失、その後、蒸気発生器給水機能喪失等により、原子炉冷却機能喪失。</li> <li>・4号機は、原子炉冷却材漏えい時における非常用炉心冷却装置による注水不能事象が発生。</li> </ul>
訓練の内容	<p>以下の項目を「シナリオ非提示」にて実施</p> <p><b>【玄海原子力発電所】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) AM訓練</li> <li>(2) 緊急時対応訓練</li> <li>(3) 通報訓練</li> <li>(4) モニタリング訓練</li> <li>(5) 避難誘導訓練</li> <li>(6) 原子力災害医療訓練</li> <li>(7) 原子力防災要員等の動員訓練</li> <li>(8) オフサイトセンター連携訓練</li> <li>(9) 火災対応訓練</li> </ol> <p><b>【本店即応センター】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 通報訓練</li> <li>(2) 緊急事態支援組織対応訓練</li> <li>(3) モニタリング訓練</li> <li>(4) ERCとの連携訓練</li> <li>(5) 原子力防災要員等の動員訓練</li> <li>(6) 原子力事業者間協力協定に基づく対応訓練</li> <li>(7) 発電所支援対応訓練</li> <li>(8) プレス対応訓練</li> <li>(9) 住民避難支援対応訓練</li> </ol> <p><b>【後方支援拠点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 設置・運営訓練</li> <li>(2) 発電所支援に係る本店即応センターとの連携訓練</li> </ol>
訓練の評価	<p>○今年度の訓練テーマ「防災訓練と連動した現場実働の習熟」及び「一部の対応要員喪失による対応」並びに中期計画見直しに係る評価・分析結果における「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた対策本部要員を分散した対応での連携確認」及び「新EALを使用した適切な通報訓練の実施」について、原子力災害対策活動に支障を与えることなく対応できていることを確認。</p> <p>○発電所、本店、後方支援拠点及び各支社等が連携し、原子力災害発生時に原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できることを確認。</p> <p>○昨年度訓練の主な改善項目への対応状況は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ERCに対し、プラント状況説明の役割を担っている発話者がERCからの質問を抱え込み、プラント状況等の報告に支障をきたす場面があったため、発話者の役割分担を、プラント状況説明者とERCからの質問回答者に見直した。 ⇒発話者は役割分担に基づく発話ができおり、役割分担したことでERCへの滞りない情報共有に効果的であり、ERCへの情報提供能力が向上し、確実な報告を行うことができた。</li> <li>・発電所が立てた優先する戦略に向けた、具体的な対策が容易に把握できるように「設備状況・戦略シート」を見直した。 ⇒見直したシートを用いたことにより、発電所が優先する戦略に向けた、具体的な対策を容易に把握することができ、本店即応センター内やERCに対して分かり易い説明を行うことができた。これにより、本店即応センター内及びERCへの情報提供能力が向上し、確実な情報共有を行うことができた。</li> </ul>
今後に向けた改善点等	<p>○更なる情報共有の充実を図る観点から、今後の訓練に反映する主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初動時にERCに対して説明するプラント状況について、チェックシート等の様式に、初動報告の情報等が明確となるよう検討する。</li> <li>・発話ポイントの発話例に15条認定会議時とその後の「設備状況・戦略シート」を用いた説明時の戦略説明方法を明記することについて検討する。</li> </ul>

○玄海原子力発電所における要素訓練（作業手順の習熟を図る個々の訓練）

・対象期間：2019年10月16日～2021年1月18日

	実施日	参加人数	訓練の概要	今後に向けた改善点
緊急時対応訓練	2019年10月16日、 11月14日、 2020年1月30日、 2月5日、18日、 19日、20日	75名	○発電所において全交流動力電源が喪失したことを想定し、重大事故等時における緊急時対応訓練を実施する。	・なし 〔今後も、訓練において状況を 確認し、更なる改善を 検討していく。〕
	2020年10月 27日、12月14 日、15日、16日	66名		・1号機冷却用水源の確保手順において、1号機大型油分離槽へ送水ホースを布設した後に、ホースブリッジを1号機ディーゼル発電機室前に16個設置したが、当該箇所は車両が通行しないことが明確となったため、設置は不要とし、手順の見直しを行った。
通報訓練	2020年 9月9日	38名	○通報連絡要否判断、通報連絡文の確実な作成及び社内外関係箇所へ迅速かつ確実な通報連絡ができることを確認する。  ○玄海2号機について、新規規制基準未適合炉として、現状の設備状態で適用されるEAL及び現在使用できる設備を認識した対応ができることを確認する。	・FAX送付先にてFAX送信枚数が不明であり、受信者がページ抜けに気付かない可能性があるため、通報文右下に「○/△（○：該当ページ数、△：全ページ数）を記入する。
原子力災害医療訓練	2020年 10月30日	20名	○管理区域内で負傷者が発生したことを想定し、負傷者の搬出、汚染の除去、応急措置等の訓練を行う。	・なし 〔今後も、訓練において状況を 確認し、更なる改善を 検討していく。〕
AM訓練	2020年 11月10日、11日	49名	○アクシデントマネジメントガイドラインを用いた事象進展防止、影響緩和措置の判断・選択が適切に行われることを確認する。	・なし 〔今後も、訓練において状況を 確認し、更なる改善を 検討していく。〕
モニタリング訓練	2020年 11月27日	16名	○緊急時モニタリング（放射性物質濃度、放射線量の測定等）に係る対応能力向上を図る。	・中央制御室のチェンジングエリア設置、可搬型照明設置において、資機材運搬の動線を考慮した設置手順の見直しについて検討する。

	実施日	参加人数	訓練の概要	今後に向けた改善点
避難誘導訓練	2021年 1月18日	17名	○見学者来訪時に緊急事態が発生したことを想定し、関係者への迅速な連絡及び避難誘導ができることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> [ 今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく。 ]

以上

## 用語等の解説

### ○AM (Accident Management)

アクシデントマネジメントのこと。原子炉の燃料が重大な損傷を受ける事故への拡大防止や万が一拡大した場合の影響を緩和するための対策。

### ○ERC (Emergency Response Center)

原子力規制庁緊急時対応センターのこと。原子力施設で災害が発生した場合に、政府の活動拠点となる機関。

### ○EAL (Emergency Action Level)

緊急時活動レベルのこと。事故の進展に応じて避難の準備等を行うため、原子力施設の事故の状況に応じて3段階に区分（警戒事態、施設敷地緊急事態、全面緊急事態）し、その判断基準として設定したもの。

以上